

報道関係各位

株式会社ベネッセコーポレーション
代表取締役社長兼 COO 福島 保
(コード番号 9783 東証・大証第一部)

小学生～高校生を対象とした放課後の生活時間調査 速報

6割が「忙しい」「時間を無駄に使っている」を肯定

時間の使い方に課題がみられる一方で、楽しい毎日を送る子も多い

株式会社ベネッセコーポレーション(本社:岡山市)の社内シンクタンク「Benesse 教育研究開発センター」では、2008年11月に、全国の小学5年生から高校2年生8,017名を対象にした、生活時間の実態と意識に関する調査を実施しました。本調査は、子どもたちの時間の使い方の実態や時間に関する意識をとらえ、生活や学習における課題を明らかにすることを目的にしています。本調査の主な結果は、以下の通りです。

1) 放課後の過ごし方は、地域による差が小さい。

- 居住する自治体の人口規模で生活の違いをみたところ、睡眠時間、学習時間、メディアの時間、部活動の時間など、多くの項目で地域による差は小さいことがわかった。
- ただし、学習時間については、都市部ほど「学校の宿題」が短く、「学校の宿題以外の勉強」が長い。また、小学生では都市部ほど「外遊び・スポーツ」の時間が長いといった違いがある。

2) 半数以上は「忙しい」と感じているが、8割は「毎日が楽しい」を肯定。

- 「忙しい」と感じている子は57.3%(小49.5%、中59.2%、高64.5%)で、半数を超える。
- しかし、「毎日が楽しい」を肯定する子どもも82.7%(小89.1%、中81.5%、高76.0%)と多い。

3) 6割が「時間を無駄に使っている」と感じている。

- 「時間をむだに使っていると感じる」を肯定するのは59.4%(小46.5%、中63.6%、高69.4%)。中学生になると時間の使い方に対する不満を感じる子が急増する。
- 「計画的に勉強する」を肯定するのは36.5%(小44.1%、中34.6%、高29.7%)と4割に満たない。

4) 「時間の使い方」に対する得点(自己評価)の平均は60.6点。

- 日ごろの時間の使い方について得点で評価してもらったところ、平均は60.6点(小68.5点、中58.2点、高54.1点)だった。
- 得点が低い子ほど、メディアの時間や一人ですごす時間が長く、睡眠時間や学習時間、部活動の時間が短い。こうした傾向は、小学生から高校生まで共通している。
- 得点が低い子は、「やる気が起きない」「いらいらする」などの心身の疲れを肯定する比率が高い。

8割の子どもは「毎日が楽しい」と感じています。しかし約6割の子どもが「忙しい」「時間をむだに使っている」と回答しており、時間の使い方に課題を感じている割合は低くありません。特に、小学生から中学生にかけては生活が大きく変化するため、時間の使い方についての自己評価も大きく下がります。さらに、時間の使い方に対する自己評価が低い子は、心身の疲れを感じている割合が高いといった傾向もあります。

こうした結果から、学校段階や学年に合わせて、どのように時間を使えばよいか、子ども自身が考える機会を持ったり、保護者や教員が時間の使い方について助言したりする必要があると言えそうです。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社ベネッセコーポレーション 広報・IR部 (担当:十河、坂本、西沢、濱野)

電話:042-356-0657 FAX:042-356-7301

■調査概要

調査テーマ	子どもの生活時間の実態と時間に関する意識
調査方法	郵送法による自記式質問紙調査
調査時期	2008年11月10～14日
調査対象	全国の小学5年生～高校2年生 8,017名（配布数 25,716通、回収率 31.2%）
調査の枠組み	PART I：子どもたちの時間の使い方[意識と実態] ～アンケート形式の設問に回答～ PART II：子どもたちの24時間 ～平日24時間の生活を15分単位で記入～
調査項目 (PART I 部分)	ふだんの生活時間／習い事／学校外の学習機会／学習塾の利用／部活動（中・高校生のみ）／アルバイト（高校生のみ）／増やしたい時間／楽しい時間・つらい時間／時間のすごし方／時間の使い方の点数（自己評価）／家族と決めている時間のルール／1年間にすること／将来について／日本社会について／心や身体の疲れ／成績の自己評価／希望する進学段階など

■主な調査結果

①小学生から中学生にかけて、時間の使い方が大きく変化する。

表1 生活時間(学年別) (速報版 p.4～5、p.12)

(分)

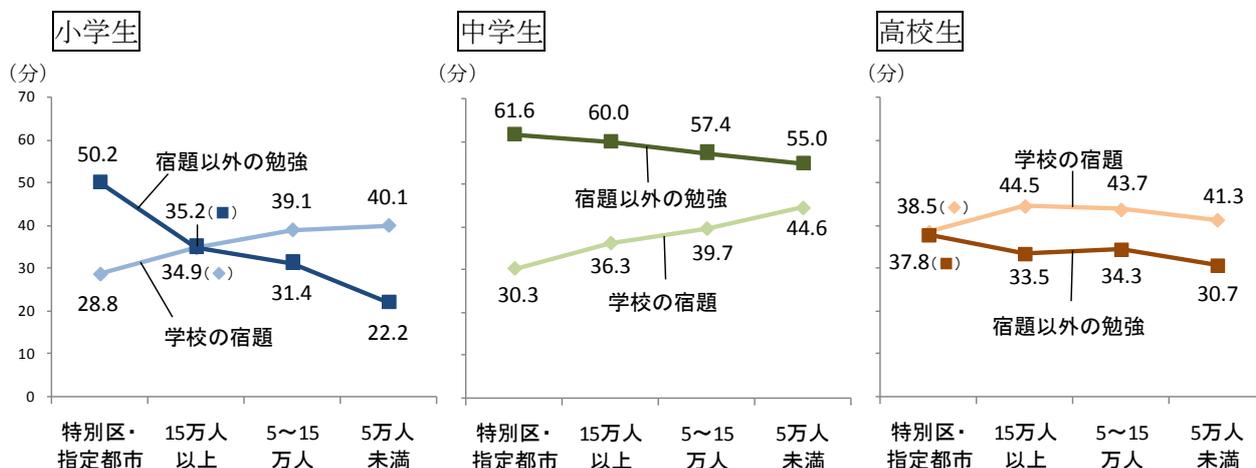
	睡眠	学習	外遊び・スポーツ	友達と過ごす	テレビ・DVD	携帯電話	部活動			
全体	453	84	26	139	106	30	75			
小5生	516	67	45	106	103	2	-			
小6生	41分減少	501	75	22分減少	44	30分増加	118	5	91分増加	
中1生	460	79	22	148	113	17	91			
中2生	442	55分増加	78	18	152	117	28	67分減少	93	
中3生	420	58分減少	133	18	145	104	33分増加	38	61分増加	26
高1生	399	75	12	160	94	71	87			
高2生	392	78	13	163	96	76	80			

* 数値は1日あたりの平均時間(分)。白抜き文字は最大値を示す。変化については顕著なものを示した。

* 平均時間の算出方法は「速報版」を参照。

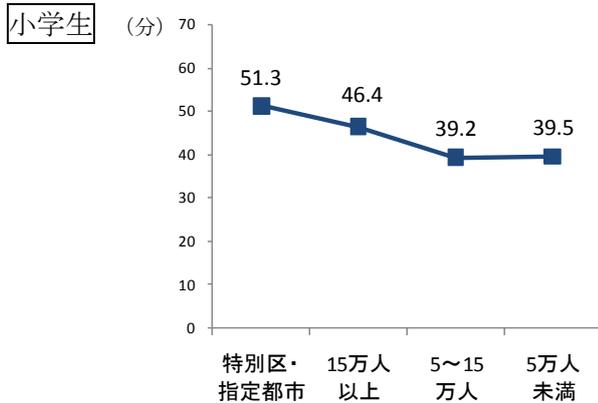
②都市部では「学校の宿題」が短く、「宿題以外の勉強」が長い(小・中学生)。

図1 学習時間(人口規模別) (速報版 p.8～9)



③都市部では「外遊び・スポーツの時間」が長い(小学生)。

図2 外遊び・スポーツの時間(人口規模別)(速報版 p.4)



④半数以上は「忙しい」と感じているが、8割は「毎日が楽しい」を肯定。

図3 忙しい(速報版 p.21)

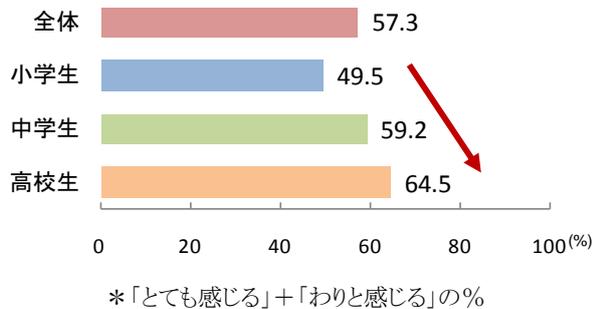
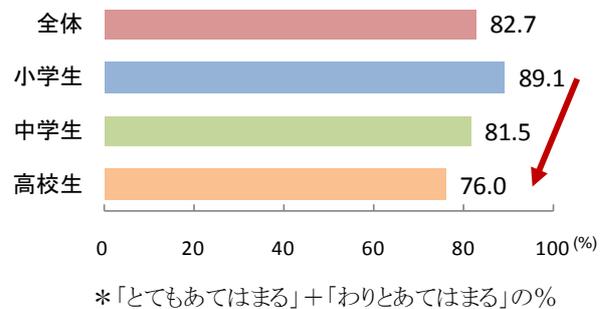


図4 毎日が楽しい(速報版 p.19)



⑤6割が「時間をむだに使っている」と感じている。

図5 時間をむだに使っていると感じる(速報版 p.19)

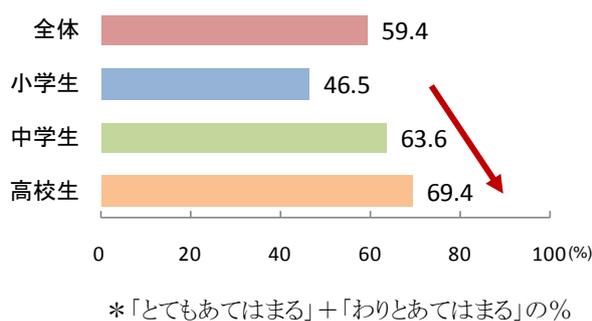
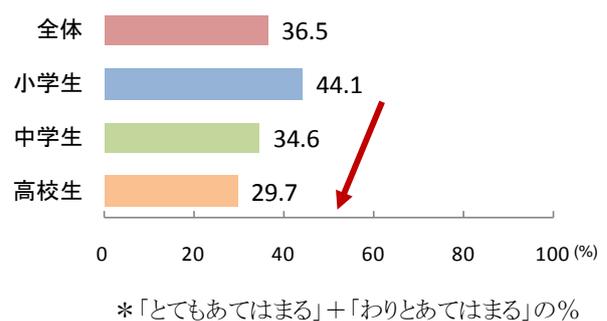
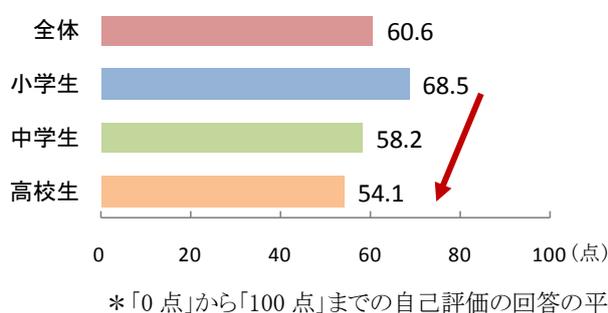


図6 計画的に勉強する(速報版 p.19)



⑥「時間の使い方」に対する得点(自己評価)の平均は60.6点。

図7 時間の使い方の点数(自己評価の平均)(速報版 p.20)



⑦「時間の使い方」に対する自己評価が低い子は心身の疲れを感じている。

表 2 生活時間と心身の疲れ(時間得点別) (速報版未掲載)

	生活時間								心身の疲れや楽しさ				
	睡眠	ぼーっとする	学習	テレビ・DVD	ゲーム	携帯電話	部活動	一人ですごす	いらいらする	やる気が起きない	忙しい	毎日が楽しい	
中学生合計	441	26	96	111	35	27	71	91	58.8	61.7	59.2	81.5	
自己評価	低群(0点~40点)	432	36	89	120	45	31	63	114	68.8	82.6	54.6	66.1
	中群(50点~60点)	439	27	97	115	34	30	68	95	62.2	67.2	57.0	81.6
	高群(70点~100点)	447	18	100	103	30	23	77	74	49.8	45.3	63.6	89.7
	「高群-低群」の差	16	-18	11	-16	-14	-8	14	-41	-19.0	-37.3	9.0	23.6
有意差(検定)	***	***	**	***	***	**	***	***	***	***	***	***	

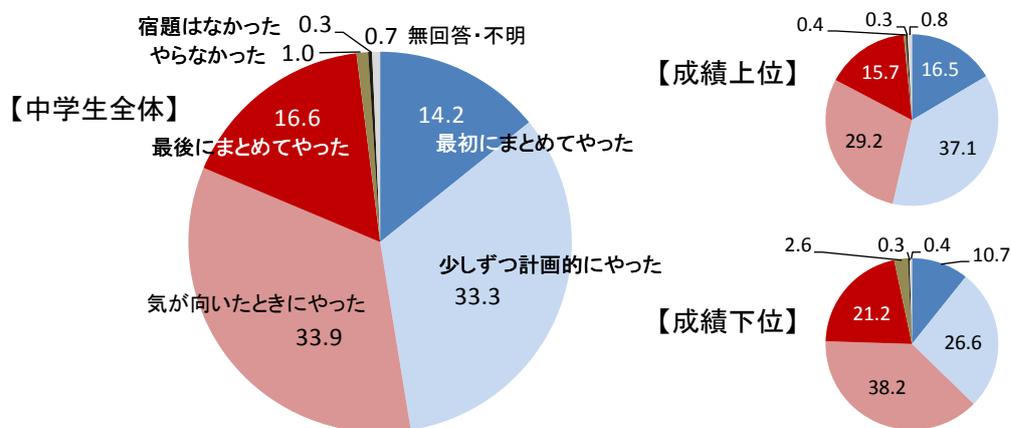
*生活時間の単位は「分」、心身の疲れは「とても感じる」と「わりと感じる」、楽しさは「とてもあてはまる」と「わりとあてはまる」の合計比率(%)。

*赤く囲んだ部分は、低群・中群、高群を比較したときの最大値。

*有意差について、「***」は危険率0.1%未満の水準で有意、「**」は危険率1%未満の水準で有意であることを示す。

補足データ①:夏休みの宿題の取り組み方と成績には関連がある。

図 8 夏休みの宿題の取り組み方 (速報版未掲載)

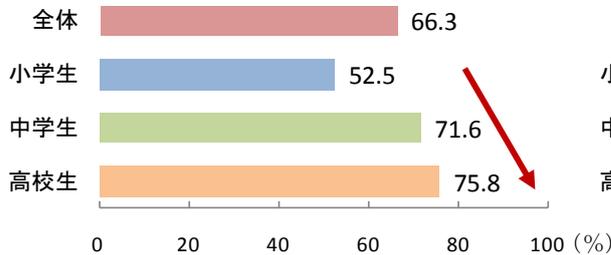


*「成績上位」はクラスでの成績に対する質問に「上のほう」「やや上のほう」と回答した者、「成績下位」は「下のほう」「やや下のほう」と回答した者。「真ん中くらい」と「無回答・不明」の者は省略した。

夏休みの宿題の取り組み方(中学生)についてたずねたところ、成績上位層は「最初にまとめてやった」「少しずつ計画的にやった」が多く、成績下位層は「気が向いたときにやった」「最後にまとめてやった」が多い。このような傾向は、小学生や高校生にもみられる。夏休みの過ごし方と成績には関連がある。

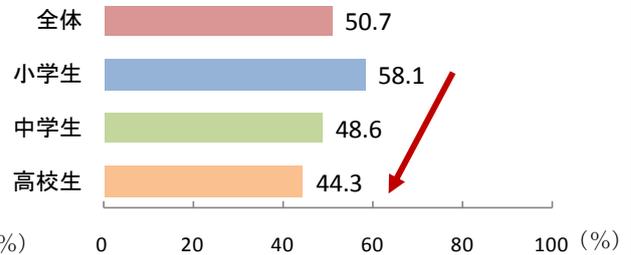
補足データ②: 将来展望は明るくない

図9 日本の社会「悪くなる」(速報版 p.23)



* 「とても悪くなる」 + 「まあ悪くなる」の%

図10 世の中を良くするためにがんばる(速報版 p.22)



* 「とてもあてはまる」 + 「わりとあてはまる」の%

これからの日本の社会が良くなると思うか、悪くなると思うかをたずねたところ、3人に2人が「悪くなる」と回答した。しかし、「これからの世の中を良くするためにがんばりたい」を肯定したのは半数にとどまる。

<ベネッセ教育研究開発センターの活動／WEBサイトについて>

ベネッセ教育研究開発センターでは、今後も、時代の変化に即したテーマで、子どもや教育に関する、調査や研究活動を行い、その結果を広く社会に開示することで、さまざまな方々との議論の輪を広げていきたいと考えています。ベネッセ教育研究開発センターのWEBサイト(<http://benesse.jp/berd/>)では、今回の調査データのほかにも、さまざまな独自調査のデータ・報告書を公開しています。詳細は別紙をご覧ください。

Benesse 教育研究開発センター WEB サイトについて

<http://benesse.jp/berd/>

ベネッセコーポレーションの教育調査・研究部門のWEBサイト。教育関連の独自調査データや、調査研究に基づいた教育記事を発信しているほか、小・中・高・大学向けの定期刊行誌のバックナンバーなど、1万ページを超える教育情報のアーカイブを公開しています。



The screenshot shows the homepage of the Benesse Education Research Center. At the top, there is the Benesse logo and tagline. Below it, the site title 'Benesse 教育研究開発センター' is displayed. A navigation menu includes 'HOME', '情報誌ライブラリ', '調査・研究データ', '教育フォーカス', and 'Benesse教育研究開発センターについて'. A search bar is located on the right. The main content area features a large banner for '子ども・学びの基礎研究' with a list of articles and a sidebar for '情報誌ライブラリ' and '教育フォーカス'.

ベネッセ教育研究開発センター WEB サイト トップページ URL : <http://benesse.jp/berd/>

今回の調査報告書は、センターWEB サイト上の、次のページで公開しています。

<http://benesse.jp/berd/center/open/report/houkago/2009/soku/index.html>

今回の調査の他にも様々な独自調査を行っております。詳細は次のページをご覧ください。

<http://benesse.jp/berd/data/>